

実験廃液貯留時の個別収集対象物

個別収集対象物

以下の物質を含むものは、安全性等の面から実験廃液貯留時の分類基準（TUA－03-446-01-05-02）とは区別して個別収集を行う。

1．爆発性物質

ピクリン酸、過酸化物、硝酸アンモニウム等

2．反応性物質

1) 酸化性物質と還元性物質		《酸化剤》	過酸化水素、過マンガン酸、過硫酸、次亜塩素酸等
		《還元剤》	亜硫酸、チオ硫酸、ヒドラジン、ヒドロキシルアミン等
2) 強酸と有機過酸化物のように混合されると燃焼または分解爆発する物質			
3) 重合反応が暴走するモノマーなど			
4) 酸化性物質と可燃性物質	《酸化性物質》	オキシハロゲン酸塩	過塩素酸塩、塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩、亜塩素酸塩、次亜塩素酸塩等
		金属過酸化物、過酸化水素	【金属過酸化物】 過酸化カリウム、過酸化カルシウム等
		過マンガン酸塩	過マンガン酸カリウム等
		ニクロム酸塩	ニクロム酸カリウム等
		硝酸塩類	硝酸カリウム、硝酸ナトリウム、硝酸アンモニウム等
		硝酸、発煙硝酸	
		硫酸、発煙硫酸、三酸化硫黄、クロロ硫酸	
		酸化クロム(Ⅲ)	
		過塩素酸	
		ペルオキシ二硫酸	
		塩素酸化物	
		二酸化窒素(四酸化二窒素)	
	《可燃性物質》	ハロゲン	フッ素、塩素、臭素、ヨウ素、三フッ化塩素、三フッ化臭素、三フッ化ヨウ素、五フッ化塩素、五フッ化臭素、五フッ化ヨウ素
		ハロゲン化窒素	三フッ化窒素、三塩化窒素、三臭化窒素、三ヨウ素化窒素
		非金属単体	リン、硫黄、活性炭等
		金属	マグネシウム、亜鉛、アルミニウム等
硫化物		硫化リン、硫化アンチモン、硫化水素、二硫化炭素等	
水素化合物		シラン、フォスフィン、ジボラン、アルシン等	
炭化物		炭化カルシウム等	
有機物		炭化水素、アルコール、ケトン、有機酸、アミン等	
その他	金属アミド、シアン化合物、ヒドロキシルアミン等		
5) 過酸化水素と金属酸化物		【金属酸化物】 二酸化マンガ、酸化水銀等	
6) 過硫酸と二酸化マンガ			
7) ハロゲンとアジド	《ハロゲン》	フッ素、塩素、ヨウ素等	
	《アジド》	アジ化ナトリウム、アジ化銀等	
8) ハロゲンとアミン	《ハロゲン》	フッ素、塩素、臭素、ヨウ素、三フッ化塩素、三フッ化臭素、三フッ化ヨウ素、五フッ化塩素、五フッ化臭素、五フッ化ヨウ素	
	《アミン》	アンモニア、ヒドラジン、ヒドロキシルアミン等	
9) アンモニアと金属		【金属】 水銀、金、銀化合物等	
10) アジ化ナトリウムと金属		【金属】 銅、亜鉛、鉛、銀等	
11) 有機ハロゲン化合物と金属		【金属】 アルカリ金属、マグネシウム、バリウム、アルミニウム等	
12) アセチレンと金属		【金属】 水銀、銀、銅、コバルト等	
13) 強酸との混合により発火・爆発する物質		オキシハロゲン酸塩	過塩素酸塩、塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩、亜塩素酸塩、次亜塩素酸塩等
		過マンガン酸塩	過マンガン酸カリウム等
		有機過酸化物	過酸化ベンゾイル等
		ニトロソアミン	ジニトロペンタメチレンテトラミン(DPT)等
14) 自然発火物質	《アルカリ金属類》		ナトリウム、リチウム、カリウム等
	《マグネシウム、ジニコニウム、チタン、アルミニウム及び亜鉛》		
	《有機金属化合物》		トリメチルアルミニウム、ジメチルカドミニウム、四メチルスズ、トリイソブチルアルミニウム等
	《水素化合物》		
	《過酸化物》	有機の過酸化物 無機(アルカリ及びアルカリ土類金属)の過酸化物	
15) 禁水生物質	水と反応する無機の塩化物		無水塩化アルミニウム、五塩化アンチモン、三塩化ホウ素、オキシ塩化リン、五塩化リン、三塩化リン、四塩化ケイ素、無水四塩化スズ、塩化チオニル、四塩化チタン等
	水と反応する有機化合物		無水酢酸、塩化アセチル等

3．特殊引火物

消防法特殊引火物（コロジオン、二硫化炭素）等

エーテル類（テトラヒドロフラン、ジオキサン等）【過酸化物を作り易いので他の廃溶媒と混合しないこと】

4．臭気の強い有機系溶液

含窒素有機系廃液 ビリジン、アニリン、アミン等

含硫黄有機系廃液 メルカプタン、チオ尿酸等

5．刺激の強い有機酸

酢酸、蟻酸等

6．錯化剤

アンモニアやEDTA、酒石酸、クエン酸等の錯化剤と重金属は混合しないこと